

● シリーズ 私の見た日本 Vol.158

## 日本の神社とベルギーの教会の比較

Lynn Van Acoleyen (ヴァン・アコレアン・リン)

ベルギーのアントワープ出身。  
ルーバンカトリック大学日本学科2010年卒業。大阪大学大学院文学研究科2013年卒業。2015年結婚、息子を出産。現在ベルギーのDCMEMBAで勤務。



私が初めて日本に来たのは2007年の10月です。ベルギーの大学で2年間日本語・日本文化を勉強した後、大阪外国語大学で1年間留学する奨学金を取得できたからです。一生懸命勉強した日本語を、日本で日本人と話すことができることをとても楽しみにしていました。

関西空港に着陸してすぐ、日本人の親切さを感じました。日本では皆丁寧で、何も分からない外国人をできる限り手伝ってくれました。1年間の留学はあっという間に終了し、2年後ベルギーの大学の日本学科を卒業しました。しかし、日本のことが忘れられず、そして日本語をもっと上手になりたいと思い、再び日本に戻ることを決意しました。

2回目は2010年10月から2013年4月までの間、大阪大学大学院文学研究科に入学し、共生文明論コースの研究室で日本の文化と歴史について研究しました。この2度目の留学でも同じ研究室の学生に温かく受け入れてもらいました。

私のふるさとであるヨーロッパの教会は寒い場所です。多くの教会は広く天井も高いので、建物全体を暖めることが本当に難しいです。子どもの時の教会の一番の思い出は、厚いコートを着て、ベンチに座って長い間

黙って神父さんのお話を聞かないといけないうという寒さの中の思い出です。

ヨーロッパの教会の建築は、入る人にわざと自分自身の小ささを感じさせるために設計されています。教会は、神様への敬意の念をもたねばいけないという目的を持って建てられています。ベルギーの教会はいろいろのスタイルがありますが、スタイルや特徴が違ってても、考え方は同じです。

あまり残ってはいませんが、10世紀-12世紀のロマネスク教会は強い・堅いイメージを持っています。12世紀以降のゴシック教会は高く、天を見上げる感じです。また写真2のようなガーゴイルは、雨樋の機能をもつものですが、普通のチューブだけではなく、怖い動物の姿をつけています。無学の庶民に悪の存在を連想させ、大聖堂から罪を外部へ吐き出す意味があります。

このようなヨーロッパの教会と比べて、同じ宗教建物でも、日本の神社は温かく気持ちのよいところだと思います。日本で住んでいたアパートは大阪府茨木市の茨木神社のすぐ前にあって、よく神社に行きました。ベルギーで大きな庭のある比較的広い家に住んでいたので、日本のアパートは当初とても狭いと感じました。そのような時は、通りを渡っ

て神社へよく行きました。良い天気の場合は、梅の木の近くに座って、お参りする人々を見て過ごした大好きなところでした。そこではいつも、神社と寒い教会との大きな違いを感じていました。教会の寒さ・神社の温かさは、建築スタイルだけではなく、使っている材料にも違いがあると思います。ベルギーの教会は石造で、日本の神社は木造です。石は冷たい材料で、木は触れると温かいです。どちらも自然の材料ですが石と異なって木は成長していると感じています。

神社建築の周囲の自然についてみると、これこそが私にとって日本の神社の建築の一番の見どころだと思います。神社建築と言うと一般的に建物をさしますが、神社の場合自然も大事なポイントではないかと考えます。大学の留学生たちと、初めての見学旅行で伊勢神宮に行きました。そこでびっくりしたのは、建物には入れなくて、外から建物(ほとんどが屋根でしたが)を見ることしかできなかったことです。それに関わらず、伊勢神宮の自然がとても美しく、場所の雰囲気が神秘的でおだやかであったことに感動し、本当に来てよかったと思いました。神宮式年遷宮のことについても勉強し、やはり建物だけでなく、守られてきた儀式・豊かな自然・荘厳

な雰囲気重要なポイントであることが分かりました。

神社を構成しているいろいろな建物から同じことがいえると思います。1つの大きな建物ではなく、手水舎・本殿・拝殿・神楽殿・社務所など、広い地域にいろいろな建物が建っているその全体を「神社」と言います。教会にも同じ目的を持っている場所がありますが、それは全部同じ建物の中に入っています。例えば、手水舎のように、自分を清めるところがあります。聖水盤がドアの隣にあって、入るとき指を入れて、十字を描きます。しかし、それは教会の中にあります。

またヨーロッパの教会は、町の一番高く大きい建物として作られています。つまり、壮麗で目立っていて、周囲と適合しない建物だと思います。一方、神社は、さまざまな建物が別々に建ち、周囲と調和しています。神社は美しいですが、その美しさは周囲の自然によって強調され、一方で周囲の自然の美しさをも強調すると思います。一例としては、厳島神社の有名な鳥居は、宮島の美しい自然を強調し、神社の美しさは、周囲の自然とともに神社の美しさがあると言えると思いま

す。もう一つの例として、伏見稲荷大社の多数の鳥居は、参道の山を使って、とても印象的なものになっています。同じ数の鳥居を自然の少ない町中の京都に建てたら、同じ印象にはならないでしょう。

参道も大事な神社の見どころの一つではないかと思えます。教会の多くは町の真ん中で、とても行きやすいところにあります。神社は広い敷地をもっているため、参拝するためには長い距離を歩かなければならないところもあります。前述の伏見稲荷大社もそうです。最初に行ったのは夏のとても蒸し暑い日で、山の上まで登るのがとても大変でした。その違いは宗教のありかたの違いにあるのではないかと思えます。キリスト教では、神様への信仰義務は重要で、教会に行くだけでは神様への義務を果たしたことになります。儀式に参列することや告解することが大事なのです。日本の神道では、自らが神社に行くことにもっとも重要な意味があり、これは神社を参拝するための過程が最も難しいことからののではないかと思えます。

最後に、教会に比べて神社は、色彩に富み、明るく、人を喜ばせる要素をもっていると思えます。ベルギーの教会はステンドグラスの窓以外に、色がほとんどありません。歴史的

には創建当時は内部にも装飾がほどこされていたようですが、現在あまり色彩は残っていません。石造りで入口が狭く、神社のように開放的でも明るくありません。また、ベルギーの友達が日本に来て神社と一緒にいくと、いつも「神社って楽しいところだね!」とびっくりして言います。おみくじを引くことや絵馬に書くことなど、楽しいことがたくさんできるところでワクワクするようです。

今回は、神社と教会の比較について書きました。日本の神社は温かい要素をたくさん持った場所だと思います。日本で生活するなかで日本が大好きになりました。本当に住みやすいところだと思います。しかし、それでも時々ホームシックになって、自分の国のベルギーのことを思い出しました。ベルギーの好きなところだけでなく、あまり好きでなかった教会も日本では懐かしくなり、多くのよい点もあると考えるようになりました。しかし、日本の神社は宗教の場所としても、建築的に見ても、自然との調和を考えても、最高だと思います。今度は生まれた息子を日本に連れて行き、神社を見せたいと思っています。

(編集/藤森衣子)



写真1 トゥルナーのロマネスクなノートルダム大聖堂



写真2 オステンド教会のガーゴイル



絵1 神社の構成



写真3 茨木神社の梅苑



写真4 厳島神社の鳥居